

【一宮基督教研究所サマー・スペシャルに向けて】G.E.ラッド著『終末論』から読み取る九つの遺言③

— One Chapter, One Message, from Ch.7 to Ch.9 —

<https://youtu.be/ajJwwJZqx0U>

\*

#### 【導入】

先々週より、三回シリーズで、一宮基督教研究所の今年度の取り組みとしての「サマー・スペシャル」について紹介・案内させていただいています。今日はその最後、三回目です。

先週の注目すべき情報として、東京の御茶ノ水クリスチャンセンターで開催されました「島藺進氏の講演—緊急連続セミナー『この国はどこへ行くのか：世の秩序を超える選択肢を示せ』」があり、クリスチャン新聞にその要旨が掲載され教えられました。その明治維新から昭和そして今日に至る歴史認識、その状況分析において、わたしが神学校で「比較宗教学(宗教の神学)」で教えてきたことと同じ内容でありました。それで、自分の取り組んでいることに強い確信を与えられ、大変心強く思いました。このような視点を念頭に抱きつつ、ラッド著『終末論』の7章、8章、9章から、ラッドが最も語りたかった「遺言」としてのメッセージのエッセンスに耳を傾けましょう。

\*

#### 【遺言としてのメッセージ⑦】

ラッド著『終末論』第七章「復活と携挙」から聴き取る、ラッドの第七の遺言メッセージとは何でしょうか。第七章は、「旧約聖書には、…肉体を伴った復活への望みについて幾つかの言及が見いだされる」という言葉で始められ、新約聖書におけるイエスの復活の中心性が語られ、「復活において、キリストが「いのちの御霊」になったのであるなら、復活のときにイエスは目に見えない霊的な世界に入ってしまったと理解できる」、「そこからイエスは栄光に満ちた神的顕現…をもって人々のもとに現れる」、「この同じイエスが、今日御霊において、イエスのすべての民とともにあり、欲するかたちで、欲する場所で、欲するときにご自身を見えるようにすることができる」と説明されています。

\*

#### 【遺言としてのメッセージ⑧】

ラッド著『終末論』第八章「審判」から聴き取る、ラッドの第八の遺言メッセージとは何でしょうか。第八章は、「聖書は、人間ひとりひとり自らの行いに責任があること、そして聖く正しい神の前に立つ審判の日に直面しなければならないことを明確に教えています。「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」(ヘブル9:27)という言葉で始められ、十字架の贖罪の赦しを基盤としつつ、「御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされる」(ローマ8:3-4)と語られ、「キリストという土台の上に」価値ある建物を建て、報いを受ける生き方をしよう励ましています( I コリ3章)。まもなくブラジルでのオリンピックが始まります。ですから、わたしたちも、主の御前にあつて、より優れた色のメダルがもらえるように( I コリント9:27)走り続けたいと思います。

\*

#### 【遺言としてのメッセージ⑨】

ラッド著『終末論』第九章「神の国」から聴き取る、ラッドの第九の遺言メッセージとは何でしょうか。第九章は、「人間は地上に住むように創造された存在であり、「神は歴史の中に置かれた人間を、救い、また裁くために地上を幾度も訪れておられる」という言葉で始められ、終わりにヨハネは、千年王国の後、来るべき時代が開始される時、「新しい天と新しい地」を見えています。それは、神の国の究極的な舞台は地上であるということであり、確かにこれはすっかり変貌した地ですが、同じ地の延長線上にあるものです。この新しい創造に呼応するのが肉体の復活です。ついに、神の贖罪の目的が実現されます。神は贖われた地球上で、神との完成された交わり、奉仕、礼拝をもつように、旧約・新約の双方から贖われた人々を集めて下さる、と語られています。

\*

#### 【まとめ】

今回は、ICIサマースペシャルの準備メッセージとし、三回シリーズで、ラッドの絶筆『終末論』の九つの章から九つのメッセージに耳を傾けました。準備をされていて教えられますことは、パウロが I コリント 15 章で語っているように、今日もまたさまざまな運動や教えにおいて「福音理解の骨格」がいい加減に扱われる傾向が増し加わっているのではないかと思うからです。またこの「福音理解の骨格」のゆがみ、またはずみというものは、その上に建てる家にも大きな影響を及ぼします。

序の部分で語り続けていますが、衆参三分の二の改憲派議席があり、わたしたちはこれにどう対応していけば良いのか、という課題につきましても、わたしたちは、「しっかりした福音理解」に立つのであれば、今後盛んになってくるであろう—特に、経済的な危機や軍事的な危機が訪れたときには、急激な「ナショナリズムの高揚」に抗することは難しいと思います。社会においては、そのような傾向に迎合し、そのようなムードに飲み込まれるクリスチャン、さらにはそのムードに乗ろうとする牧師、伝道者も出てくると思います。恐ろしい時代です。わたしたちは、そのような時が到来することを念頭に、みことば立って、霊的な備えに入るべき時期にきたというべきと思います。

もしこのような取り組みに関心のある方がおられたら、どなたでも参加申込して下さいましたら感謝です。では、お祈りしましょう。

\*

#### 【説教原稿】

[http://www.aguro.jp/the-nard-fragrance/20160717\\_ic\\_ss\\_for\\_ici-ss-ch789.pdf](http://www.aguro.jp/the-nard-fragrance/20160717_ic_ss_for_ici-ss-ch789.pdf)

\*

#### 【サマースペシャル・チラシ】

[http://www.aguro.jp/d/ici\\_summer-special\\_for\\_jec/20160824-25\\_ICI-Summer\\_Special\\_pamphlet\\_for\\_2-jec.pdf](http://www.aguro.jp/d/ici_summer-special_for_jec/20160824-25_ICI-Summer_Special_pamphlet_for_2-jec.pdf)